

## 援助的サマースクールの研究IX (その5)

### A Study on Supportive Summer School IX (5)

鈴木 健一郎

(東京成徳大学大学院)

石崎 一記

(東京成徳大学)

*Kenichiro SUZUKI* (Graduate School of Psychology Tokyo Seitoku University)

*Kazuki ISHIZAKI* (Tokyo Seitoku University)

#### 要 約

本研究では、2010年度の援助的サマースクールにおける29名の参加者のうち、小学校5年生のY.Nの行動記録を整理し、自己効力感 (Self-Efficacy) の観点から考察を行ったものである。初参加のサマースクールの中で活動をすることで、Y.Nの中に自己効力感が生まれ、期間中の様々な行動を生み出すことにつながり、高まっていったと考える。

キーワード：自己効力の信念、自己効力感、援助的サマースクール

#### I. はじめに

本サマースクールは、2002年から開催されていて、本年度は9回目となる。「浴びるほどの自然を体験すること」「異年齢の集団の中での相互作用を体験すること」「自立的な生活を体験すること」を基本方針として、本年度は栃木県鹿沼市の鹿沼自然体験交流センターでの初の開催となり、平成22年8月21日から8月26日までの5泊6日間に実施された。参加者は、幼稚園年長から高校3年生までの29名であった。

本研究では、小学5年生の男児Y.Nのサマースクールにおける行動記録を整理し、自己効力感 (Self-Efficacy) の観点から考察を行った。

#### II. 事例の概要

##### 1. 本児について

- (1) 名 前：Y.N
- (2) 性 別：男子
- (3) 学 年：11歳 小学5年生
- (4) 障 害：軽度の知的障害 (知的な部分)

以下は、アンケートの事前調査による特徴である。

- ① 生活習慣について (身の自立、起床、就寝、食事など)

身のまわりのことに関してはゆっくりだが自分でできる。注意しているのが食事で、お皿をキレイにして食べ残さないこと。気になっているのが、就寝時本人は無意識で指吸いをすること。(けっこう大きな音がする)。朝注意しても本人も気づいておらず、本人も治せないと困っている。

## ② 対人関係について

人懐こく自分から相手に接していくが、同年代の友達は興味の対象が本人(Y.N)が幼く、ついていけなかったり、言語が流暢でなく状況説明が苦手で会話がスムーズにいかない為、お友達に冷たくあしらわれることも多い。

大人の人に対しても慣れるまで(特に初めの方は)会話がスムーズに成り立たないことがある。

## ③ 勉強・学習面について

家での学習においては、おしゃべりをしてしまうこともあるが、集中力もある。

計算や漢字はできるが、文章問題が苦手。

## ④ 性格行動の特徴について

明るく好奇心がある。怖がりなところがあり、大きな音(声)が苦手で、花火の音、運動会でのピストルの音に耳をふさいだり、信号を渡る際には手をあげてきょろきょろと周りを見ながら渡る。

## ⑤ 注意点、配慮点

走っても構わないが、あまり息が切れるようなら注意してほしい。

## ⑥ その他の特徴

ディズニーが好き。時間を気にする、計画を立てるのが好き。ダンスを習っており、踊ったり動いたりするのは大好き。

参加の動機(援助的サマースクールに期待すること)

家族以外の人達との優しいふれあい。

## 2. 期間中の行動

### (1) 1日目

#### ※ 受付

当日の朝、受付にはY.Nと母親の2人で来ていた。大学院の玄関で「おはようございます」とあいさつをすると、Y.Nは「ねえ、僕何するの?」とちょっと心配そうな様子も見られたが、母親が「お兄さん先生と一緒にキャンプに行くんだよ」と説明すると、「僕、キャンプ行くんだ」と笑顔で体を震わせながら言っていた。出発の時間とな

り、大学院からバスに向かっている時、母親に「ちゃんとお兄さん先生の言う事聞くんだよ」と言われて「うん、分かった」とY.Nは返事をしていた。また、夏休みの宿題の漢字ドリルを持ってきているので、サマースクール中にもちゃんと毎朝やるように言われるとYは素直に頷いていた。バスを待っている間にY.Nは「ディズニーの本を持ってきた」と言って、バックから出して見せてくれた。

#### ※ バス

バスに乗ると、Y.Nは落ち着いた様子で席に座り、カーテンを閉めたり開けたりしていじっていた。少し興奮気味に「今日何やるの?」と何度か聞いた。これから何をするのか知りたくて、ソワソワした様子だった。バスが走り出してから、Y.Nと水族館の話になり、品川水族館に何度も行った事があるとYは言っていた。「品川水族館ってどういうところなの?」と筆者が聞くと、Yは大まかな水族館の施設案内をしてくれて、水族館の図を描いてくれた。バスが出発して少し経ち、レクリエーションで自己紹介をする時に、Y.Nはお笑い芸人のモノマネをしてその場を盛り上げようとした。けんちゃんもY.Nと一緒にギャグをやった。

途中の都賀西パーキングエリアでは昼食のおにぎりをおいしそうに何個も食べた。「おにぎり食べないの?」とこちらがおにぎりを食べていないのに対して興味を持っていた。

またバスが出発し、落ち着いてくると、マイクを持って何か面白い事をして場を盛り上げようとしていた。歌を歌うときはYもみんなと一緒に歌っていた。

#### ※ オリエンテーション

鹿沼自然体験交流センターに到着し、バスから降りて荷物を運んだ後、研修室に集まり、施設案内、施設体験ラリーをしている時に、「これから

何するの?」「お風呂はいつ入るの?」とプログラムの時間を何度も聞いてきた。その都度答えたが、Y.N は先に何をするのか気になり、確認したい様子だった。

外の散歩コースを探検ラリーで歩いている時、ヘビが道の間を横切った。Y.N は、「ヘビやだ、なんであんなのがいるの」「ぼくやだ。やだ」と言って驚いた様子だった。

#### ※ 遊び場作り

Y.N はハンモックとブランコを作るのを手伝っていた。バッタがたくさん飛んでいたの、「うわぁ」とYは驚いていた。他の子が滑車で遊んでいるのをYが見ていたら、他の班のスタッフにY.Nも滑車に乗らないか、と誘われたが、Yは「別にいい」と言って滑車には乗らなかった。

木登り用の足場をトトロとスタッフが作っている様子を見てY.Nは「すごい、すごい」と言って驚いていた。

#### ※ 入浴 夕食

入浴を済ませて夕食の時Y.Nは、「僕、これはいらぬ」と言って、おかずを残した。ご飯はおかわりをしていた。

#### ※ 花火・星の観察

Y.Nは最初怖がって自分で花火をやろうとしなかった。母親の話では、以前にもY.Nは花火をしたことがあったが、ただ怖がってなかなか自分では手に持たずに見ているだけのことが多かったということだった。Y.Nは「やって」「やって」と言って、こちらが花火に火をつけて燃え始めてから、花火をYに渡すとY.Nは花火を持った。何度かそうやって花火が点火してから渡すことで、花火に慣れてくるとY.Nは花火を回したりしていた。花火を回して、火花が近くにいますたつや子供にあたりそうになったら、注意した。花火の終わる時間が近づいてきて、周りのスタッフ

に薦められて、Y.Nは怖がりながらも自分で花火に火を点けようとしていた。

星の観測はブルーシートを敷いてその上にみんな寝転んで空を観察したが。空が曇っていて星があまり見えなかった。Y.Nにも「寝転んで空を見てみない?」と勧めたが、Y.Nは「別にいい」と言って興味がなさそうな様子だった。

#### ※ 日記・オセロ 就寝

日記、オセロの時間となり、Y.Nはオセロをやりたいがらないので、Y.Nに「オセロやらない?」と聞いたが、Yはあまりやりたくはない様子だった。グループの他の子供はオセロをやっていた。日記を書き始めると今日あった出来事を色々思いだして集中して書いた。今日会ったエピソードを思い出していた。途中Yから離れて他の子の所を回ってYの所に戻ったが、まだ日記をかいていた。こちらが目を離して悪かったとYに謝ったが、「別にいいよ」と言った。

Yは寝る前に注射を打つので、まっすーと一緒に2階の看護師の西村さんが泊まっている部屋を使わせてもらい、注射を打つ事になった。注射をどういう体勢で打とうかY.Nは真剣に悩んで決めるのに時間がかかった。注射を打つことには慣れている様子で、Y.Nは落ち着いていた。注射を打った後に、部屋に戻ると、Y.Nは「漢字ドリルをやりたい」と言った。筆者が「明日の朝の学習の時にできるよ」と言ったが、Y.Nは「少しでも進ませてもらわなきゃ終わらないから」と言ったので、子どもの寝る時間が迫っていたが、15分だけ漢字ドリルをやった。Y.Nは丁寧に一つ一つの漢字を書いていた。寝る時間になり、Y.Nは「けんちゃんと一緒に寝たい」と言ったが一緒に寝る事が出来なかった。

子どもの就寝時間が過ぎて、スタッフミーティングの途中に、Y.Nが同じ班の子が騒いでいて眠れないと調理実習室に知らせに来た。その後Yの部屋に行くと、同じ部屋の子はみんな起きてい

た。Y.Kが興奮して寝付けずに自分のベッドの上からノートやお菓子などを下に投げたり騒いでいた様子だった。Y.Nに「知らせてくれてありがとう。Y.Nは大丈夫？」と言うと、「大丈夫だよ」と言った。

(2) 2日目

※ 係の仕事 朝学習 自由遊び

係の仕事は、Yは自分の部屋のちりとりを少しだけした。朝の学習は昨日の続きの漢字ドリルをやった。自由遊びの時間は、Yは外で遊びたくない様子で、自然体験交流センターの1階で遊んだ。Yがエレベーターに乗りたがるので、「これには乗っちゃダメだよ」とYを止めたが、Yはこちらの制止をなかなか聞かず、エレベーターに乗って、センターの1階と2階を行き来した。エレベーターに乗ってY.Nの隣に行くと、「のっちゃったー、のっちゃったー」と言って、Y.Nは笑っておどけた様子だった。

同じ班のY.Kも交流センターの1階で遊んでいた。YはY.Kの近くを通った時に「ねえ、ねえ」と話しかけたが、Y.Kはバディと一緒に遊ぶことに熱中した様子でYの問いかけには答えなかった。そのあとY.NはY.Kにだんだん近づいて、Y.Nの問いかけに反応しないY.Kに対して「おい、君は聞いてんのか?」「君は、ばーかだ」と言っていた。Y.KはのY.N言葉に反応して、Y.Nの体を掴もうとしたり、追いかけてやうとした。Y.Nは少しイライラした様子だった。

※ 川遊び マスつかみ

川遊びではチューブに乗ったりして遊んだ。またY.Nは、川にいる小魚を取ろうとしていた。「そこにいっぱいいるから取って」と言って水面に見える小魚を気にしていた。マスつかみは、はじめ、マスを渡そうとすると、Y.Nは「え、やだよ」と触る事を怖がっていた。以前にもY.Nは祖父と釣りに出かけたことが何度かあっ

たが、やはり怖がりなのであまり魚には触らなかったと、母親がいていた。スタッフがマスを捕まえてY.Nに渡すと、Y.Nはマスを触った。串を刺してマスの内臓を取って焼く工程は嫌がってやらなかった。焼けたマスを食べると「美味しい」と言っていた。マスを食べてから、川遊びをしている時は、石を川に投げる遊びに熱中していた。他の子が通る時は、「危ないから通ってから投げて」とY.Nに注意した。

また、スタッフ5人と一緒に輪になってY.Nが主体の伝言ゲームのような遊びをした。Y.Nの決めたルール(合図を皆で伝え合う)に失敗すると、失敗した人はみんなから水をかけられるというもので、この遊びを何度も繰り返した。Y.N自身も「水をかけられたい」と言い、スタッフに水をかけられていた。川遊び中Yは「これ、痛いから見て」と言って、Y.Nの履いているバレーシューズが水に入ってきたり痛そうな様子だった。

※ 入浴 夕食

お風呂に入るとY.Nは興奮して「うおー」と言ったり、他の子やスタッフに水をかけたりした。他の子は少しあきれた様子だった。

夕食の時は、筆者と夜のお楽しみ会の時間にお笑いコントがやりたいと何度も言った。何度も言うので、トトロに聞いて、いいって言ったらやってもいいよ、と言うと、「じゃあトトロに聞いてきて」と頼んできた。トトロにお笑いコントの事を聞いて了承が出たので、夜のお楽しみ会の時間に、Y.Nと2人でお笑いコントを3分だけ時間をもらってやる事になった。

※ 夜のお楽しみ会(お笑いコント)

お笑いコントは夜のお楽しみ会の最初の3分間を使わせてもらって、Y.Nとけんちゃんでお笑いコントをやることになった。Y.Nは「やったー」「けんちゃん、お笑いコントやろう。お笑いコン

トやろう」と言って、すごく嬉しそうだった。お笑いコントでやるネタはYがほとんど自分で考えて、けんちゃんにやるネタを事前に教えてくれた。コントはトトロをネタにした話をY.Nと2人でやった。お笑いコントを見ていた子どもたちやスタッフが笑ってくれて、やり終わった後Y.Nはすごく興奮して「楽しかったね。明日もやろうね」と何度も言った。「明日もやれたらやろうね」と言うと、Y.Nは「明日も絶対やる」と意気込んでいた。寝る前に注射を打った。

### (3) 3日目

#### ※ 起床 ラジオ体操 朝の散歩

朝Y.Nを起こしに行くと、声をかけてもベッドからなかなか起きなかった。何度か声をかけて身体を揺すってY.Nは目を覚ました。着替えや検温など用意をするのに時間がかかり、下においていくと、ラジオ体操は終わるところだった。朝の散歩の整列でY.NはY.TやY.Tと同じ班の女の子達と近いところにいた。朝の散歩の時に、散歩コースを歩いている時にY.Nは女の子達と一緒に歩きながら話をしていた。

#### ※ 外遊び 木登り 鬼ごっこ

朝食の後に、Y.Nは一階の女の子の部屋に行った。女の子達とY.Nは部屋のドアを開け閉めしたりして一緒に遊んでいた。途中でY.NがY.Tのことを蹴ってしまい、Y.Tが泣いてしまった。

けんちゃんがY.Nに「Y.Tに謝ろうね」と言ったら、Y.Nは「ディズニーの本を持ってきて」というので、ディズニーの本を持ってくると、Y.Nは女の子達と一緒に本を見た。ディズニーの本をみんなで見ている時に、Y.NがY.Tに「ごめんね」と言っていた。

その後、外に出て、Y.Nがディズニーの踊りを女の子達と一緒にやった。輪になって。「僕がやるのを見て」とY.Nはリーダーシップをとった。踊りがずれてくるとY.Nは「それちがうち

がう」と言って自らリーダーシップをとっていた。外遊びの時間にY.NはY.T達と遊び場で木登りをした。Y.Nは木に登るとき、「僕登るから見ててね」と言い、登り始めると、「あー無理だから後ろ押して」「けんちゃん見ててね」「Y.Tちゃん見ててね、僕登るから」と言っていた。

Y.Nは木に登ろうとすると、「あ〜僕一人で登れないから、後ろ押して！ 押して！」と言っていた。木の上に登ったるとY.Nは「やったー。登った。僕凄い」と少し誇らしげな様子だった。その後Y.Nはみんなと一緒に遊び場で鬼ごっこをしていた。「けんちゃん僕の水筒持っていて」と言い、けんちゃんに水筒を渡した。

#### ※ ピザ作り 自由遊び

ピザ係のスタッフがピザ生地の作り方の説明をして、みんなで集まって作り方を聞いている時、Y.Nは「けんちゃんのばーか」と言ったり、けんちゃんに「こいつ嫌い」と言ったり、みんなの前で「けんちゃんは嫌な奴なんだ」と言ったり、イライラして落ち着かない様子だった。ピザの生地作りで班ごとに分かれて調理をしている時に、Y.Nはやたらとけんちゃんのことを馬鹿にしたり、物を投げようとしたり、唾を吐いてきたり、落ち着かなかった。スーパーバイザーのだつとなつがY.Nに近づいて色々と話をしているうちにY.Nはだんだんと落ち着きを取り戻していった。

#### ※ 火起こし カレーコンテスト

班ごとに分かれて火起こしをしている途中、Y.Nは遊び場の方へ行って、ブランコに乗った。Y.Nの隣で話をしていると、Y.Nが学校で同じクラスの女の子に嫌なことをして、お母さんと女の子に謝りに行ったという話、をぼっとした。Y.Nはお母さんが可哀想だったと言って、その女の子のことを自分は嫌いだ、と言っていた。その後、同じ班のところに戻って、Y.Nも一緒に

カレー作りを手伝っていた。Y.N はけんちゃんが「包丁で切って」と頼んでも、「やだやだ」「僕はやらないの」と言っていた。バイザーのなつつがY.N に近づいて、にんじんとじゃがいもの皮むきをするのをY.N の横で見せると、Y.N も皮むきを手伝った。

カレー作りの途中で、もう一人のバディのなおが自然体験交流センターに到着して合流した。カレーを作り終わってからカレーコンテストが行われた。なおがY.N の横について色々と話していた。Y.N はおいしそうにカレーを食べていた。

#### ※ テント泊

子どもたちがテントで寝ることになっていたので、Y.N の荷物を一緒にテントへ持って行った。子どもたちの眠るテントの中はみんな興奮して騒がしい様子だった。なおがY.N と一緒にテントで寝た。

#### (4) 4日目

#### ※ 朝

朝テントにYを迎えに行くと、Y.N は起きていてなおと既に一緒にテントから自分で出ている。

#### ※ 手打ちうどん

午前中は手打ちうどんの器を作るのに竹を切る作業をした。Y.N はじめ、積極的に竹を切ろうとはしなかったが、実際に竹をのこぎりで切ってみて、竹が切れてくると、「うぉー」と言いながら、竹を切った。一生懸命竹を切り、器を二個作った。Y.N は油性ペンで絵を器に書いた。その後野外炊事場に出てうどん作りをした。トトロが皆の前でうどんの作り方を教えた。子どもたちは率先してトトロのうどん作りの見える前の方に集まっていた。Y.N はトトロがうどんの生地を豪快にこねるのを見て「うぉー、トトロ先生すごいなー」と驚いていた。麺の作り方を教わった後班ごとに分かれてうどん作りをして火起こしをした。Yは

女の子の班のY.Tと一緒にうどんを食べたいと言っていた。けんちゃんに「Y.Tちゃんとうどん一緒に食べてもいい？」と何度も聞いた。「一緒に食べていいかY.Tちゃんに聞いてみたらどう？」と答えると、「じゃあY.Tちゃんに聞きにいこう!」と言った。「けんちゃんも一緒に来て」と言うので、Y.Nと一緒にY.Tのいる班のところに行った。Yは恥ずかしがって「けんちゃんがY.Tちゃんに言って」と言った。「Y.Nと一緒に食べたいのなら自分で言わなきゃだめだよ」とこちらが言うと、Y.Nはしぶしぶだが「Y.Tちゃん一緒にうどん食べよう」と言った。Y.Tは「同じ班のみんなと食べるんだよ」と言った。Y.Nは「ええ〜」と言っていた。自分の班に戻り、うどんを食べた。他の子がおかわりをする中、Y.Nはうどんのおかわりはせずに「僕はもういい」と言っていた。

#### ※ 墨塗り

午後になって、墨を体に塗りあう墨塗りを遊び場でやった。肌に直接墨を塗り合うのをY.Nは嫌がって逃げていたが、最終的に墨を塗られた。墨をY.Nの体から落とすのに時間がかかり、水道の水で洗うのをY.Nは「冷たい。やめて」「嫌だ」「やめろ」と言って、嫌がっていた。けんちゃんとなおが「墨を落とさないで、中に入れないんだよー」と何度か言うと、Y.Nは「じゃあ、早くしてね」と嫌がりながらも、墨を落とすのに耐えていた。

#### ※ 入浴 廊下でのやりとり

夜のお楽しみ会の時間に子供たちが主体になって肝試しをする計画を立てていて、子供たち同士で秘密にしておこうという話だった。Y.Nは墨塗りの時間に夜のお楽しみ会で肝試しをすることをばらしてしまい、他の子供たちからひんしゅくを買っていた。自然体験交流センターに戻り、入浴を済ませてから、一階のお風呂の入り口近くの

廊下にけんちゃんとなおと Y.N の 3 人で座って、Y.N が夜のお楽しみ会に何をやるのかをばらしてしまっただけを女の子達に謝ろうと待つことにした。しばらくして、Y.T や Y.S が通り、彼女たちが近くに来た時に Y.N は、「肝試しをやることをばらしちゃってごめんね」と言った。女の子たちから「Y.N 本気で謝ってるのー?」、「Y.N 自分が何をしたか分かってる?」と言われて Y.N は少し考えているように見えた。女の子たちに謝って少したってから、Y.N はけんちゃんとなおに「やっぱり今日は夜のお楽しみ会で肝試しやるんだよ」と周りの女の子たちに分かるくらいの声で興奮して言った。Y.N が言った後、周りの女の子たちはあきれている様子だった。

#### ※ 夜のお楽しみ会 就寝

夜のお楽しみ会は子供達がおどかす役で肝試しをやった。Y.N もおどかす役をした。一通り肝試しが終わってから、Y.N は興奮してけんちゃんに「肝試し怖かった?」「僕またやりたい。またやりたい」と何度も言っていた。また「Y.T ちゃん達も驚かされにくるかな」「僕また驚かす役やるんだ」「次はもっと驚かすぞー」と言っていた。Y.N は自分が驚かす役になって肝試しをやったことがとても楽しかった様で「凄く楽しかった」と言っていた。けんちゃんが「またやりたい?」と聞くと Y.N は「うん。またやりたい!」と元気に答えた。

Y.N は寝る時間になって自分の部屋のベッドに戻った。ベッドに上がると Y.N は天井を向いた状態で、「あははははは。あははははは」と 3 分間くらい、一人で笑い続けた。こちらが声をかけても笑いが止まらない様子だった。けんちゃんが「今日楽しかったの?」と聞くと、「うん。僕楽しかった」と Y.N は言っていた。

#### (5) 5 日目

#### ※ チャレンジハイイク

チャレンジハイキングの出発前に Y.N は自然体験交流センターの入り口で違う班の子の手を取って一緒に遊んでいた。

歩き出してから最初、もう一人のバディのナオが Y.N に「お前くるな」と言われたり、しりぞけられていた。途中コミュニティセンターでのお昼休憩中に、ナオが Y.N の気に入っている女の子に取り入って、後で一緒にブランコに乗る約束を取り付けた。

その後出発してから、Y.N はなおのことをあまりしりぞけなくなった。

チャレンジハイキングでは、Y.N は歩き始めて最初はギャグを言ったりして楽しそうに歩いていたが、段々「歩くのが面倒くさい」と言ったり、「もう僕歩けないよ」と言っていた。ガッコ山に登り始めると、「もう登りたくない」と途中で何度か言って疲れた様子をみせた。それでもなんとかガッコ山の頂上に達した時は、Y は満足そうな様子だった。Y.N は下りの道では少し不機嫌になって、こちらが近づくと「けんちゃんこっくん」「なおこっくん」と言っていた。

下りていくときに、「Y.T ちゃん達まだこないかな?」と言って、後ろから来ている女の子たちのことを気にしていた。「Y.N は先に下りなきゃだめだよ」と言うと、「うるさい、バカ」「お前なんかあっちいけ」と言った。途中で止まりながら、Y.N はガッコ山のふもとまで下山した。

#### ※ バーベキュー ドラエモン

バーベキューをして、班ごとに分かれて食べている時、Y.N は隣の班の女の子（主に Y.T、Y.S、A.T のこと）が気になっていた。バーベキューの食材を準備している時から「A.T ちゃんと一緒に食べていい?」とけんちゃんやなおに Y.N は尋ねていた。バーベキューの食材を焼いている時に Y.N、火の風下に座り、「暑い」と言っていた。スーパーバイザーのどっつが「Y.N 熱かったらこっちに座る?」と聞くと、「別にいい」と

言っていた。

夜7時頃になり、Y.Nはドラエモンがテレビでやっているのを見たい、としきりに言っていた。「けんちゃん、お母さんに電話してドラエモン録画するの頼みたいから電話して」と頼んだ。Y.Nの母親にサマースクールの携帯電話で電話をしてドラエモンを録画して欲しいことを頼んだ。その後、バーベキューの後片付けをしている時にY.Nと一緒に歩いていると、「サマースクールが楽しかった」とぼつりと言った。こちらが「まだ帰りたくない？」と聞くとY.Nは「うん、帰りたくない。もっと遊びたい」「明日はもっと遊ぶ」「遊ぶぞー」と力強く言っていた。

#### ※ 別れの集い

夕食の後に別れの集いをキャンプファイヤー場で行った。キャンプファイヤーを中心にしてそれぞれのバディと子どもたちが椅子にこしかけた。Y.Nはキャンプファイヤーが初めてだった様で少し怖がっていた。またキョロキョロしながら近くの女の子たちの方を見ていた。一人一人サマースクールでの感想を言っていく場面で、仲間が感想を言うのを待っている時にY.Nは「涙が出ちゃった」とつぶやいていた。

Y.Nは「感想をどんな風に答えればいいのか」と何度もたずねたので、なおが、「今自分が感じていることを素直に言えばいいんだよ」と答えていた。

なおが「今何を感じているの？」と聞くと、Y.Nは「分からない」と言っていた。なおが「感動して泣くのは素直な事なんだよ」と言うとY.Nは「うん」と言っていた。Y.Nは自分の感想を言うところで「夢はA.Tちゃん達ともっと遊びたいです」と言った。近くにいた女の子達から笑いながら「え～」と言う声が聞こえてきた。

#### (6) 6日目

#### ※ 朝食 朝の学習 外遊び 出発(帰り)

朝Y.Nは、自分で起きて、着替えや検温をした。朝食は近くに座っていた女の子達のことが気になるようで、ご飯にソースやドレッシングをかけることで興味を引こうとしている様子だった。朝食を食べるのに時間がかかった。ご飯は全部食べられなくて残した。食後の歯磨は「面倒くさいから僕やだ」と言って少しだけ磨いた。最終日の朝の学習では夏休みの宿題の漢字ドリルを少しだけやり、日記の書いていない所を少しだけ書いた。Y.Nはまわりの子どもが何をしているのか気になる様子で、「ねえ、みんな今なにやってるの？」と聞いた。けんちゃんとなおが「今は朝の学習の時間でみんな終わってない日記や勉強してるんだよ」と言うと、周りで立ち歩いている子を見て、「違うじゃん。遊んでるよ」と言っていた。Y.Nについての報告書や賞状を作成することを聞いて、Y.Nは「嫌な事はお母さんに書かないでね」と何度もけんちゃんとなおに言っていた。その後Y.Nは外に出て遊んだ。女の子達と一緒に遊んでいて、A.Tにしつこくしてしまい泣かせてしまった。鹿沼自然体験交流センターから出発する時間が近づき、Y.Nの荷物とバディの荷物を玄関にまとめて帰りのバスに乗る準備をした。

#### ※ 帰りのバス

帰りのバスは一番後列の席に座った。Y.Nはバスの中では「何時に着くの？」と言っていた。帰りのバスでは、みんな疲れている様子だった。バスレクで「となりのトトロ」や「崖上のポニョ」の歌を歌う時はY.Nも一緒に元気に歌っていた。前方の席に座っている女の子達が気になって、「A.Tちゃん達のいる前の方に僕も行っていい？」とけんちゃんに聞いた。「Y.Nの席はここだよ。ここに座っててね」と答えた。

途中のパーキングエリアでY.Nと一緒にトイレに寄った。休憩の後バスが出発してからY.Nは自分の席に座ってまっすー、なおと一緒に喋った。また、Y.Nは「Y.Tちゃんこっちみてるか

な～」と言い、なおとまっすーとけんちゃんは「みてるみてる」と言った。途中でけんちゃんがトトロと連絡を取っていると、Y.Nは「トトロ先生?」「トトロ先生なんでしょ」と興奮した様子で聞いてきた。けんちゃんが「今電話してるんだよ」と言うと「トトロせんせいだ!!」と言っていた。

### ※ 大学院到着 閉会式

バスが王子に着いて、大学院の近くのセブンイレブンの前で下車した。バスを降りると、Y.Nの母親が待っていた。母親を見てY.Nは「ママだ」と言った。母親は笑顔でY.Nに「けんちゃん先生となお先生に迷惑かけなかった?」「6日間いい子にしてたかな～?」とY.Nに言っていた。大学院に戻り保護者と一緒に2階の講義室で閉会式を行った。班ごとに分かれて各パディが子どもに賞状を渡した。Y.Nに渡す賞状には「あなたは率先して、みんなを笑いに先導したで賞」と書いてY.Nに渡した。Y.Nは自分の賞状を受け取ると、「ありがとうございます」と言った。けんちゃんとなおが、「Y.Nサマースクール楽しかった?」と聞くと、Y.Nは「楽しかったよ」と笑顔で言っていた。「1月の持ちつき大会も楽しみです」と母親が言っていた。別れの時間が近づき、「Y.Nまたねー」と言うと「またねー」とY.Nは笑顔で元気に答えた。母親が「ありがとうございました」と言って、大学院正門でY.Nと母親が乗った車を見送った。

### 3. 事後のアンケート

今年度の援助的サマースクールについて、保護者のアンケートを行った。事後のアンケートでサマースクールのことで、帰宅後にYが話した事柄として、以下のものがあった。

- ① 手作りのブランコに乗ったこと。
- ② うどんを作ったこと。(めんが太かったり、少し硬かったり、でも美味しかったこと)

③ キャンプファイヤーのこと(もう少し居たくて泣いてしまったこと)

④ カレーコンテスト、ピザ作り。(カレーは大きいお鍋で家と作り方が違うと思った。)

⑤ 散歩している時にヘビが出たこと。

⑥ 川遊びで持って行った靴が合わず痛かったこと。

⑦ 川遊びは楽しくて魚を取って(マスをつかんだこと)焼いて食べたこと。

⑧ おばけやしきでおどかす役が楽しかったこと。

⑨ けんちゃんとお話できたこと。(水族館やディズニー等)

⑩ トトロのゲームが楽しかった。

また、自由記述の報告欄には、

サマースクール最後のキャンプファイヤーの時に「涙が出てきた」という息子の話を聞いて、私も感動しました。祖父母の家に預けて私と離れる際、又、戻ってくる時、祖父母と別れる際、割とあっけらかんとしていて幼い頃より人見知りも無く、「そおいう気持ち」を感じた事が親としても嬉しかった。

小学校生活で、学校から帰って遊んでくれる友達がおらず、私が「学校生活のリフレッシュ」として近くのディズニーによく連れていってやるのですが、キャンプから帰ってきた息子の顔は、大好きなディズニーに行く時よりも輝いていた様に思います。

今後もこういう機会があり、学校ではできない友達との交流ができればいいなと願っています。と保護者からの言葉で書かれてあった。

## III. 考 察

### 1. 自己効力の信念

Bandura (1992a) は、人々の動機のレベル、感情の状態、行為は、客観的にどうであるかということよりも、もっと、その人が何を信じるかと

いうことに基づいている。効力の信念は、人々の考え方、感じ方、動機づけ、行為に影響を与えるとして述べている。また、成功する体験は、個人の効力感に強固な信念をつくりあげるものであるとも述べている (Bandura, 1982)。

サマースクールの初期の段階で、自らの考えたギャグやお笑いコントを人前で披露し、それが子どもたちやスタッフから受け入れられたという経験によって、強い自己効力の信念が Y.N の中に生まれたと考えられる。自己効力の信念は Y.N のサマースクール期間中の色々な行動を起こす源となり、それによって自己効力感が高まり、またそれが行動を通して期間中継続したものと考えられる。

## 2. 自己効力感の促進と維持

Y.N に強い自己効力感の信念が生まれたこと、自己効力感の高まりと維持には期間中の以下の行動が関係していると考えられる。

☆バスの中での自己紹介～お笑いギャグ (1日目)

☆川遊びで Y.N が考えた遊びをしたこと。夜のお楽しみ会でのお笑いコント。(2日目)

☆女の子たちと遊ぶ。Y.N が教えるディズニーの踊りを女の子たちとしたこと。木登り。(3日目)

☆Y.T に「うどんを一緒に食べよう」と誘ったこと。(4日目)

☆別れの集いで「涙がでちゃった」発言と Y.N の素直な今の感想 (夢)「女の子と一緒に遊びたい」。(5日目)

Bandura はさらに、自己効力感の信念は、認知的過程、動機づけの過程、情緒的過程、選択の過程の4つの主要な過程を経て、人間の機能を支配していると述べている。上記の行動は Y.N の認知的・動機づけ・情緒的・選択の過程を刺激し、促進し維持したものと考えられる。特に2日目の夜のお楽しみ会での「お笑いコント」は、Y.N が自ら考えたネタ (話) をみんなの前で披露して

笑いが生まれたという経験が Y.N の中で大きな体験となり、Y.N の自己効力感を高めたと推察される。

以上のことから、サマースクールの期間中に Y.N の中で、自己効力感が高まり、維持され、様々な行動に繋がっていたのではないかと考えられる。

## IV. 終わりに

初参加のサマースクールにおいて、Y.N はお笑いコントでの自己表現から女の子と遊ぶことを通しての異性との関係性まで、援助的サマースクールという特殊な環境の中で様々な体験をしたものと思われる。担当者も今回のサマースクールは初参加であったため、Y.N の気持ちをよく汲みず、不安や心細さを抱かせたと場面が多くあったと思われる。しかし、5日間のサマースクールにおいて、Y.N が体験したことは Y.N にとって貴重な経験ではないかと感じている。

また援助的サマースクールでの Y.N との関わりの中で、私自身も多くの貴重な経験をさせてもらったと感じている。

6日間の間に Y.N と一緒に行動をしたことで、普段感じられないものを体験し、それがこれからの私の臨床活動においてとても意味があるものだと実感している。

Y.N と今回の援助的サマースクールという貴重な場を提供していただいた関係者に感謝したい。

## 引用・参考文献

- Albert Bandura 1997 Self-Efficacy in Changing Societies (アルバート・バンデュラ編 本明寛監訳 野口京子監訳 1997 激動社会の中の自己効力 金子書房)
- 田原直久 2009 援助的サマースクールの研究Ⅷ(その10) 東京成徳大学臨床心理学研究 第10号